

人事異動

<退職>

事務局長 及川敏之

(9月30日付)

編集 後記

◆今年の夏(六ヶ月)は記録的な暑さでした。道内の平均気温は平年に比べ三度高く、統計開始以来最も暑かったです。最高気温が三〇度以上の「真夏日」は七月二〇日から連続四日間記録し、こちらも過去最長を更新しました。これま

での連続真夏日の記録が三〇日間であったことから大幅に更新しました。北海道では「お盆を過ぎれば夏は終わる」と言われます。札幌の場合、その年最後の真夏日は直近三〇年平均で八月一七日と、ちょうどお盆が終わる頃です。しかし、近年では九月に入っても真夏日を観測することがたびたびあります。これも地球温暖化の影響なのでしょうか。

◆国内で消費された食料がどれだけ国産でまかなわれたかを示す食料自給率の算出法はカロリーベースと生産額ベースがあります。昨年度、カロリーベースで三八%と前年度から横ばい、依然として低い水準でした。一方の生産額ベースでも五

八%とコロナ禍前より約一〇ポイント減少し、過去最低でした。従前は「カロリーベースでは先進国最低水準だが、生産額ベースではドイツやイギリスより高く、世界最低水準とはいえない、世界と比較するならば生産額ベースが公平である」との論調もありましたが、こちらも世界最低水準に低下しました。

気候変動や国際情勢の変化、さらに日本が買い負ける時代に、食料を海外に依存する危険性を再考すべきであり、食料・農業・農村基本法の見直しは、国民の命を守るために農業支援を拡充し、食料自給率の向上に本腰を入れることを期待します。

(石田 健一)

「地域と農業」第131号

発行：一般社団法人 北海道地域農業研究所
〒060-0806
札幌市北区北6条西1丁目4番地2
ファーストプラザビル7階
☎ 011 (757) 0022
Fax 011 (757) 3111
HP : <https://www.chiikinouken.or.jp>
E-mail : office47@chiikinouken.or.jp